

# あしたもみんながまっている!

令和3年2月15日 NO. 8

## コロナ禍こそ、思いやりをもって、思いやりを育みたい!

国内で新型コロナウイルスの感染が確認されてから1年を過ぎましたが、収束は未だ見えず、ワクチンの接種が年度内に始まって、その後の状況はなお不透明です。

コロナ禍では「自粛警察」や「感染者バッシング」という言葉に象徴されるように、独善的な行為が社会問題となりました。「先の見えない不安が他者に対する不信や不満を生み、攻撃的な言動へ発展したのかもしれない。」という論評もありますが、一方的な誹謗中傷やプライバシーの詮索は決して許されるものではありません。

国立成育医療研究センター（東京）が小学生から高校生約1000人を対象に行った調査によると、32%が「もし自分や家族がコロナになったら秘密にしたい」、22%が「コロナになった人とはコロナが治ってもあまり一緒に遊びたくない」と答えました。

子どもたちを「秘密にしたい」という思いにさせたのは…。

コロナの感染拡大とともに、ネットでの感染者探しや感染者、家族への差別、中傷が数多く起こりました。テレビやネットでこうしたことが報道された時、子どもたちの心に「自分は攻撃の対象になりたくない」という思いが起るのは当然です。こうした思いを抱かせている原因の1つは、大人の心ない言動と言えます。

「治っても一緒に遊びたくない」という思いは…。

私たちはコロナへの感染に少なからず恐怖や不安を抱いています。「見えない」コロナを恐れる気持ちは誰にでもあります。しかし、治っても遊びたくないというのは、自分が当事者だったらどうでしょう。治療や待機が終わって、やっと日常に戻ったのに誰も遊んでくれない。こんな悲しいことはありません。悪いのはコロナであって感染した人ではありません。誰もが感染する可能性があることを自覚し、相手の立場で考えられる思いやりをもった振舞いを私たちは見せたいものです。

コロナへの恐怖は、人の心さえゆがめてしまうことがあります。

このような時だからこそ、学校は、家庭は、地域は、「思いやり」の心～相手の痛みが分かる、きつい思いをしている友達に寄り添ってあげられるやさしい心～をもった子どもを育てようという思いを三者で共有し、そのための役割を果たしていく、まさにコミュニティ・スクール事業の精神です。

誰が感染しても不思議ではありません。私たちはそう理解しています。コロナに感染しても、感染した人が身近にいても、互いに穏やかに過ごしていくために、私たちが他者への想像力を働かせ思いを馳せ、正しい判断と行動を子どもたちにも示していきたいものです。

本校は日常の学習活動を維持できるように引き続き感染予防に努めてまいります。今後とも皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

# 5、6年生スキー学習

今年も地域の方々や登別スキー連盟の方々にお世話になり、5年生と6年生でスキー学習を無事に実施することができました。

初めてスキーを体験した子が多かった5年生。前半は思い通りに動かないスキー板に苦戦していましたが、後半はリフトに乗り、果敢に斜面に挑戦していました。閉会式では達成感に満ちた表情をしていました。

昨年に続く2回目の6年生。慣れた様子でスキーを楽しむ余裕がありました。同じグループの仲間と一緒に何度もリフトに乗り、たくさん滑ることができました。

北国だからこそできるウィンタースポーツ。たくさんの方に支えられ、貴重な体験ができました。ありがとうございました。



## 漢検

今年度もCSTの皆様にご協力いただき、実施できました。84名が受検。漢検の取組は3年目となり、漢字学習の意欲付けに繋がっています。



「あしたもみんながまっている！」のカラー版を学校ホームページにて公開しております。  
※過去のものもホームページにて公開しています。

カラー版→

